



平成 28 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社  
代表者名 取締役社長 小 崎 隆 司  
( J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5 )  
問合せ先  
役職・氏名 取 締 役 杉 本 卓 士  
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

### 平成 28 年 3 月期通期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 28 年 3 月期の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前期実績 (平成 27 年 3 月期) (A)	4,806	439	471	430
当期実績見込み (平成 28 年 3 月期) (B)	3,280	△693	△586	330
増 減 額 (B - A)	△1,526	△1,132	△1,057	△100
増 減 率 (%)	△31.7	—	—	△23.2

#### 2. 差異が生じた理由

当連結会計年度のわが国経済は、デフレ回避から追加的な金融緩和策がとられるなかで、企業収益は非製造業を中心に改善し、雇用情勢も堅調を維持しました。一方、公共投資の減少や輸出の鈍化により製造業の一部に弱さがみられ、個人消費が伸び悩むなど、回復基調は弱まりました。

商品市況は、貴金属が米国の利上げ観測によるドル高の影響より下落基調となりましたが、利上げ後は金融引き締め速度の鈍化を見込んだドル安の影響を受けて反発しました。原油は世界需給の緩和による下落から次第に持ち直しの動きが見られました。穀物は米国の天候不安での上昇から、豊作による反落後は横ばいで推移し、全国市場売買高は53,118千枚（前年比115.4%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は2,710百万円（前年同期比64.9%）となりました。また、売買損益につきましては、石油市場におけるディーリングが好調だったこともあり、114百万円の利益（前年同期比148.1%）となりました。

この結果、営業収益は3,280百万円（前年同期比68.3%）となる見込みであります。また、販売費及び一般管理費につきましては、3,974百万円（前年同期比91.0%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は693百万円、経常損失は586百万円となる見込みであります。これに加えて、投資有価証券売却益333百万円、固定資産売却益537百万円および厚生年金基金解散損失戻入益98百万円の特別利益を計上したことなどから親会社株主に帰属する当期純利益は330百万円となる見込みであります。

以 上